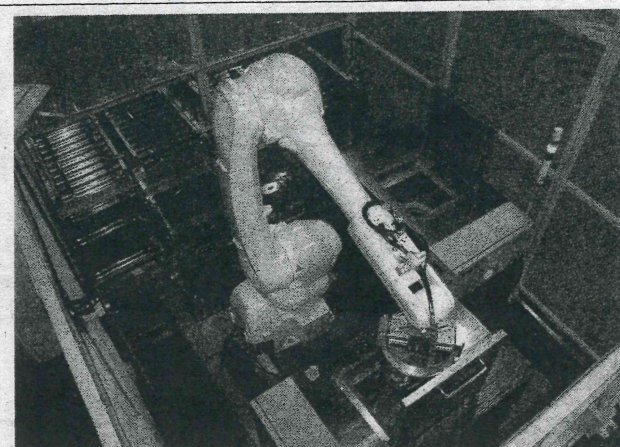


REGIONAL
ECONOMY

西日本

微小部品乾燥を自動化

島谷技研、装置とロボ連携



2台の「B. D. D. 吸引乾燥装置」と産業用ロボットを連携させたイメージ

【東大阪】島谷技研（大阪府八尾市、島谷健社長）は、産業用ロボットと連携させ、積層セラミックコンデンサー（MLC）などの微小部品のメッキ、洗浄の後工程となる乾燥工程を全自動化する装置を開発し、販売を始めた。同社の既存の「B. D. D. 吸引乾燥装置」と産業用ロボットを一体化させた。従来は作業員が行っていた作業をすべて産業用ロボットが担う。この装置の導入で、生産性の向上や人件費の削減につながると期待される。

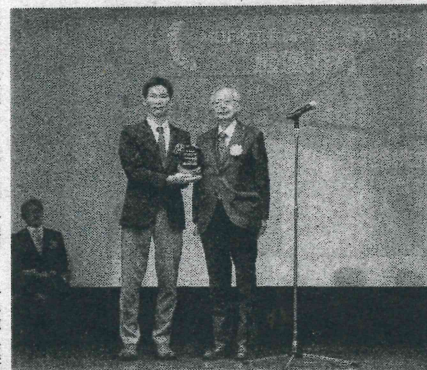
消費税抜きの本体価 連携させるとこれに約格は、吸引乾燥装置が1500万円が加わり1台約300万円、年間10台程度の販売を産業用ロボットを1台 売を目指す。

山科精器が最優秀賞受賞

大商、医工共創アワード

大阪商工会議所は医工連携マッキングなどを通じて成果を上げた企業をたたえる賞「MDF医工共創アワード JAPAN」の最優秀賞に、山科精器（滋賀県栗東市）を選んだ。2003年から実施する医療機器開発支援事業「次世代医療システム産業化フォーラム（MDF）」の一環。吸引凝固嘴管などの開発実績が評価された。

吸引凝固嘴管など評価



大商の相良副会長は、山科精器の保坂誠常務（写真左）は「治療中心の医療の業のメンバーにとっての総合的なアプローチへの励みになる。まだ収支は合っていない状況だが、社会貢献できる事業にしたい」と意気込みを見せた。医療機器を込めた。

開発に貢献した医師として、大阪大学大学院医学系研究科の中島清一特任教授ら7人も表彰された。

ちょっと訪問

旭マシナリーは大型の段ボールや紙製の箱の加工機などの製造、販売を手がける。国内に加え、韓国や欧州、中国で事業を展開。綿野真司社長は「日本経済が不透明な中、輸出が重要」と海外市場の重要性を強調する。

旭マシナリー

注目するのは欧州市場だ。2002年に装置の販売やメンテナンスなどを行

微小部品の製造工程ではメッキ、洗浄の後、水分を含む微小部品が入った容器を運び、吸引乾燥装置に容器をセットしてふたを閉め、装置のボタンを押して乾燥させる。乾燥後はふたを開け、乾燥した状態の微小部品が入った容器を取り出す。

一連の作業は従来、人が行っていたが、開発した装置ではロボットアームを使い、容器の搬送から吸引乾燥装置へのセット、ふたの開閉などを全自動化。乾燥も自動で開始し、微小部品の種類や分量にもよるが、おおむね数分程度で乾燥が終わる。

乾燥工程では短時間で効率の良い乾燥が求められる。

められているが、乾燥前の微小部品が入った容器は重さが10〜15kg程度になり、作業者が運ぶ際の負担になっていた。また、乾燥後の容器は熱くなり、乾燥装置から取り出す際にやけどの恐れがあることも課題だった。

【北九州】は新たな支援制度だ。市内釜ドのナイン（北九州市

アルミ再生で研究講

富山大・YKK AP



【富山】富山大学とYKK APは共同で「アルミ再生・循環システム工学（YKK AP）共同研究講座」を設置した。同大のアルミニウム再生に関する先端技術と同社のアルミ製造ノウハウを合わせ、より質の高い再生アルミを創り出す技術を開発し、社会実装を目指す。

研究ではアルミリサイクル率を向上させるため、材料のアルミ削減に形材の製造期間も2月30日まで進アルミニ